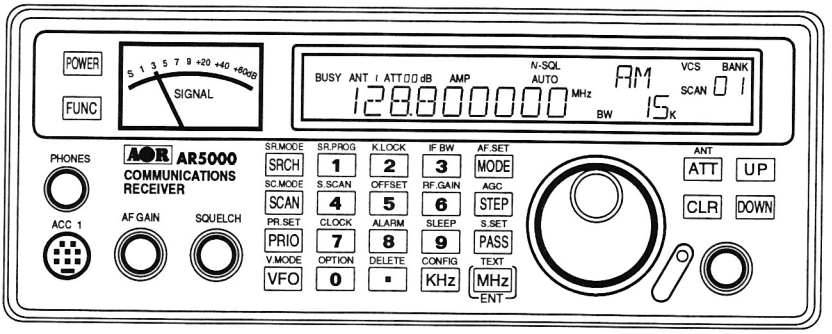
Cyber Scan®

NEW WIDE BAND ALL MODE RECEIVER

AR5000

基本操作マニュアル



AOR®

警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると人が死亡または、傷害を負ったり、物的損害などの発生が想定されます。
	万一、焦げ臭いにおいのする場合や煙が出た場合は、直ちに電源プラグを外して煙が出なくなるのを確かめ、販売店等に修理依頼をしてください。
	濡れた手で、電源アダプター等の抜き差しはしないでください。
	この機器を分解したり、内部を改造したり、調整部などを回したりしないでください。火災、感電、故障の原因となります。 EEPROMの内容を変更した場合は、動作や修理の保証はできません。
	万一、この機器を落としたり、破損した場合や、水などをかぶった場合には、販売店などにご連絡ください。そのまま使用すると危険です。

注意	安全に使用するために、次の事項に注意して本機を取り扱ってください。
	付属の電源アダプターは、本機以外に使用しないでください。
	本機を受信機としての用途以外には使用しないでください。
	本機は乳幼児の手の届かない所でご使用、保管してください。
	電源アダプターは国内専用（AC 100V）です。国外でのご使用はできません。
	電源アダプターは上部の穴をふさがないようにしてください。 ほこりをためたり、紙や布などで電源アダプターの上部の穴をふさがないようにしてください。
	コード類、本体、電源アダプターは、無理に曲げたり、上に重い物をのせたりしないようにしてください。火災、感電、故障の原因になります。
	付属品、純正品以外の電源アダプターなどは使用しないでください。

⃠	次のような場所での使用や、設置はしないようにしてください。 ◆炎天下の自動車の中や、直射日光の当たる場所、暖房器具のそばなどで温度の高くなる場所。 ◆温度が非常に低い場所。 ◆湿度が高く露がつく場所、ほこりや油煙が多い場所など。 ◆通風の悪いすき間のない狭い場所に入れる。
⚠	この機器を自動車に設置する場合は、12V (−) アース車専用です。
⚠	この機器が近くのテレビ、ラジオ、電子機器、医療機器に影響を与えるときは、使用しないでください。
⚠	外部アンテナを使用中に雷が発生したときは、アンテナ端子からアンテナ・ケーブルを外してください。
◆	本機が汚れた場合は、柔らかい綿の布などでふいてください。 ベンジンやシンナー、化学ぞうきん、洗剤などは使用しないでください。

⚠	お客様が受信した内容は、電波法上内容、存在を第三者に漏らしたり、そのことによる行動を起こしたりすることが禁止されています。

「付属品を確かめましょう」

AR5000には、次のものが添付されていますので、ご使用になる前に必ず内容をお確かめください。

◎AR5000本体
◎100V電源アダプター
◎基本操作マニュアル
◎リファレンス・マニュアル
◎リモート・マニュアル
◎保証書

「はじめに」

このたびは、エーオーアールのコミュニケーション・レシーバーAR5000をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

本書は、AR5000を操作する上で、最低限必要な各種の基本操作を説明しています。AR5000の多彩な機能を使用目的別にお知りになりたいときは、別冊のAR5000リファレンス・マニュアルをご覧ください。

「目次」

「警告とご注意」.....1
「付属品を確かめましょう」.....3
「はじめに」.....4
「アンテナ使用上の注意事項」.....5
「アンテナを接続する」.....5
「電源を入れる」.....6
　前面パネル.....6
　後面パネル.....7
　LCD表示.....7
「サーチモードにふれてみましょう」.....8
　サーチモードの操作法.....8
「メモリ・チャンネル読み出しモードにふれてみましょう」.....9
　メモリ・チャンネルの呼び出し方.....9
「スキャンモードにふれてみましょう」.....10
　スキャンモードの操作法.....10
　サイバー・スキャンについて.....10
「VFOモードにふれてみましょう」.....11
　周波数をマニュアルで入力する.....11
　VFOにサーチやスキャンの周波数を移す.....11
「バンク・リンク・グループの設定」.....12
　連続サーチしたいバンクをリンクする.....12
　連続スキャンしたいバンクをリンクする.....13
「メモリ・チャンネルの書き込みをしましょう」.....14
「操作環境を設定しましょう」.....15
　時刻のセットをする.....15
　時計表示をする.....15
　キー・ロック機能を設定する.....15
　ランプやビープ音などの設定をする.....16

「アンテナ使用上の注意事項」

◎外部アンテナを使用中に雷が発生した場合は、アンテナを直ちに外してください。
◎受信する場合は、次の点に注意してください。

◆アンテナを無線機やテレビ、ラジオ、またはパソコン等のデジタル機器の近くに設置すると、雑音が多くなります。また、自動車の中やビルの中央部等では電波が弱くなり受信しにくくなります。
◆受信状態は、ご使用になる場所や、アンテナ、季節、昼夜などによって変化します。
◆ご家庭や、車でご使用の場合は、弊社オプションのアンテナや、市販の外部アンテナをおすすめします。
◆ご使用になる場所によっては、放送局や他の無線局の強い電波の影響を受け、受信妨害を受けることがあります。
◆増幅回路付きの外部アンテナや、プリアンプ等の使用はおすすめできません。

「アンテナを接続する」

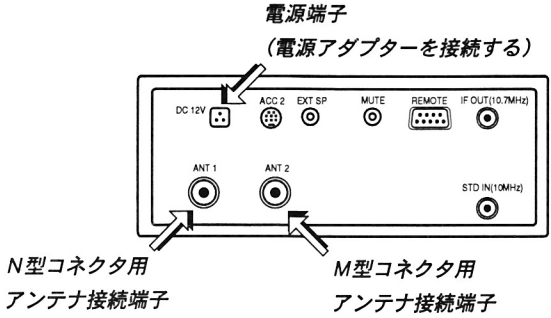
快適な受信をするには、受信しようとする周波数に適したアンテナを用意する必要があります。

本機には、N型コネクタ用（ANT 1）とM型コネクタ用（ANT 2）の２つのアンテナ接続端子が用意されています。BNC型コネクタを接続したいときは、別にN型または、M型の変換コネクタを用意して、接続してください。

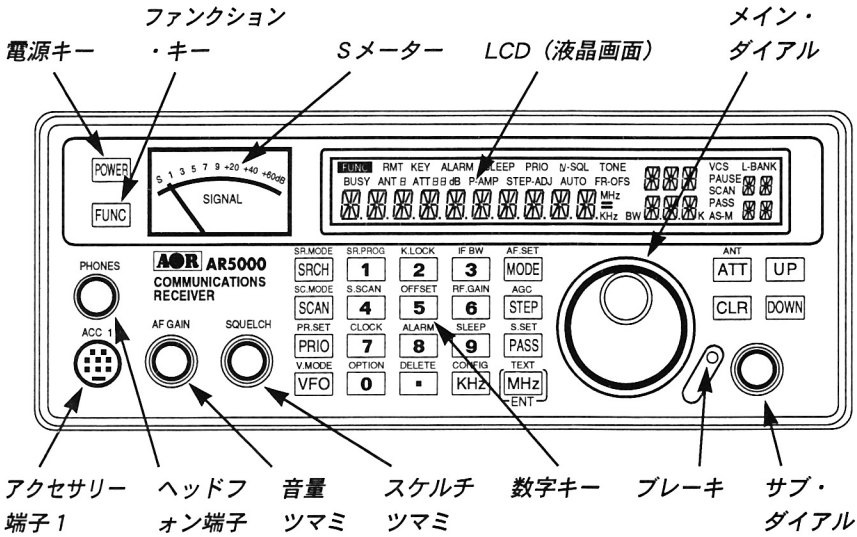
「電源を入れる」

まず、付属の電源アダプターを家庭用100Vコンセントに差し込みます。次に、本機後面左上の電源端子（DC12V）に電源アダプターを接続します。そして、本機前面左上の電源（[POWER]）キーを押します。すると電源が入ります。もう一度、電源キーを押すと、電源が切れます。

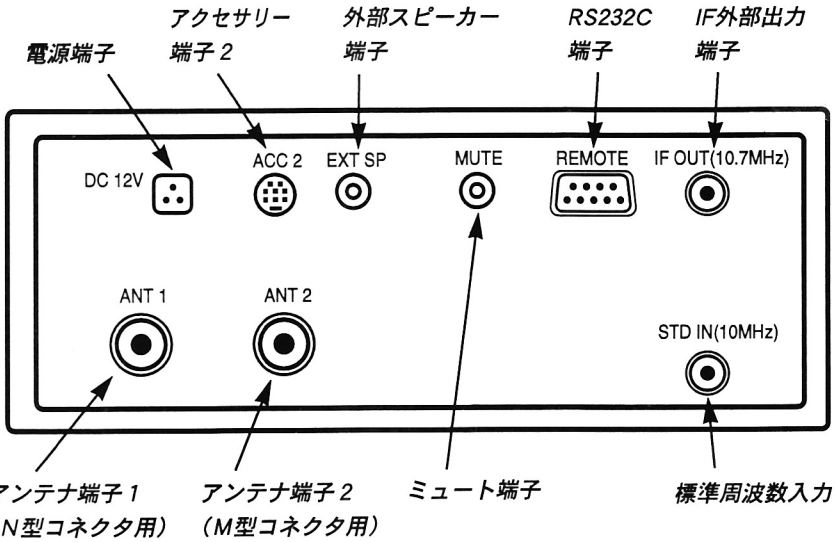
長時間本機を使用しないときは、電源アダプターを家庭用コンセントから抜いておきましょう。



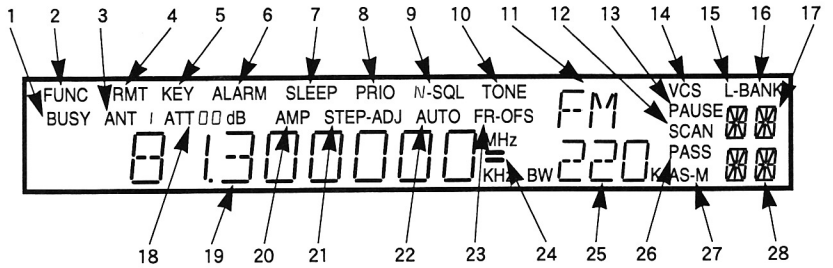
＜前面パネル＞



<後面パネル>



<LCD表示>



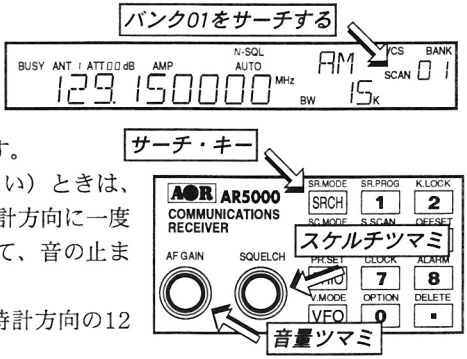
1：ビジー表示　2：ファンクションキー表示　3：アンテナ端子番号表示　4：リモート表示
5：キーロック表示　6：アラーム設定表示　7：スリープ設定表示　8：プライオリティ機能表示
9：スケルチ状態表示　10：CTCSS設定表示　11：受信モード表示　12：スキャン・サーチ表示
13：ポーズ・スキャン，サーチ設定表示　14：ボイス・スキャン，サーチ設定表示
15：バンク・リンク設定表示　16：バンク表示　17：バンク番号表示　18：アッテネーター表示
19：周波数，テキスト，入力項目表示　20：RF（高周波）アンプ使用表示
21：ステップ入力時，ステップ・アジャスト動作時表示　22：オート・モード動作表示
23：オフセット動作表示　24：AGC OFF表示　25：IF帯域幅表示　26：チャンネル・パス表示
27：サーチ時オート・ストア表示　28：チャンネル番号表示

※詳しい表示の意味は、リファレンス・マニュアルを参照してください。

「サーチモードにふれてみましょう」

サーチモードは、あらかじめメモリーされた上下周波数間で、交信している電波をさがす機能です。本機には、サーチバンクとしてバンク00〜19の20バンクが用意されています。

＜サーチモードの操作法＞

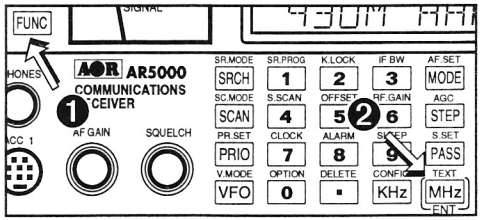


1）［SRCH］キーを押します。画面に＜SCAN＞と表示され、サーチを始めます。＜バンク01＞をサーチしているときは、右のように表示されます。
スケルチが閉じている（音が出ていない）ときは、スケルチ［SQUELCH］ツマミを反時計方向に一度回してから、時計方向に少しずつ回して、音の止まる点に合わせてください。
また、音量［AF GAIN］ツマミも、時計方向の12時くらいの位置にしておきます。

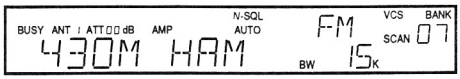
2）受信すると、サーチが止まります。［UP］、［DOWN］キーのいずれかを押すか、［メイン・ダイアル］を回すと、次の周波数をサーチしにいきます。また、この操作をしなくても信号が途切れると、次の周波数をサーチしにいきます。

3）受信しているとき、［SRCH］か［ENT］キーを押すと、受信信号が途切れても、その周波数をそのまま受信することができます。また、サーチモードに戻りたいときは、［SRCH］キーを押します。

4）サーチするバンクを変えたいときは、変えたいバンクの［数字］キーを押します。たとえば初期設定時、［0］［7］を押すと430MHz帯のアマチュア無線をサーチすることができます。また、［サブ・ダイアル］を回してもバンクを切り換えることができます。



5）サーチ・バンクに登録された文字を表示させるには、［FUNC］＋［TEXT］キーを押します。もう一度同じ操作をすると、周波数表示に戻ります。



「サーチバンクの初期設定値」

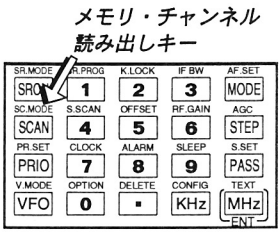
BANK	TEXT	MODE	周波数範囲
01	AIR-VHF	AUTO	118.500~135.900MHz
02	AIR-UHF	AUTO	225.000~400.000MHz
03	144M HAM	AUTO	144.000~146.000MHz
04	FIRE ETC	AUTO	146.020~150.500MHz
05	GYOUMU	AUTO	154.450~155.610MHz
06	MARINE	AUTO	156.000~157.450MHz
07	430M HAM	AUTO	430.000~440.000MHz
08	TAXI	AUTO	450.0125~451.500MHz
09	HIGHWAY	AUTO	340.850~399.375MHz
00	MCA	AUTO	850.0125~859.9875MHz

(工場出荷時の書き込み内容は、都合により変更することがあります。)

「メモリ・チャンネル読み出しモードにふれてみましょう」

チャンネル読み出しモードは、メモリ・チャンネルを呼び出して、そのメモリされた周波数をメモリされた条件で受信するモードです。本機には、チャンネル・メモリが10バンク各100チャンネルで、計1000チャンネル用意されています。

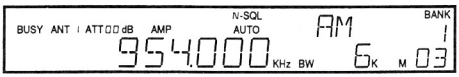
＜メモリ・チャンネルの呼び出し方＞



1) ［SCAN］キーを押します。すると、「メモリ・チャンネル読み出し」モードになります。

2) 呼び出したいメモリ・チャンネルをバンク番号、チャンネル番号の順に、３けたの数字で［数字］キーから入力します。

たとえば、バンク１の03番チャンネルを呼び出したいときは、［１］［０］［３］キーを順に押します。



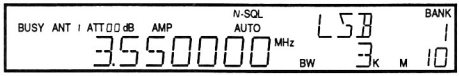
3) ［数字］キーから入力しなくても、［メイン・ダイアル］を回すか、［UP］［DOWN］キーを押すことで、順番にメモリ・チャンネル番号が変わり、受信することができます。このとき、［サブ・ダイアル］を回すと、バンクが変わります。

「スキャンモードにふれてみましょう」

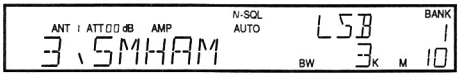
スキャンモードは、あらかじめメモリされたチャンネルを順番に受信して、交信している局を捜す機能です。

<スキャンモードの操作法>

1) メモリ・チャンネル読み出しモードのとき［SCAN］キーを押すと、スキャンモードになります。はじめから、スキャンモードに入るには、［SCAN］キーを2回押します。



2) ［メイン・ダイアル］や［UP］［DOWN］キーで、検索方向を変えることができます。
3) 受信中スキャンが停止しているとき、［メイン・ダイアル］を回すと、スキャンが再開されます。
4) ［数字］キーでスキャンしたいバンクを入力すると、そのバンクをスキャンします。
5) ［FUNC］＋［TEXT］キーを押すと、メモリ・チャンネルに登録されたテキスト文字が表示されます。もう一度同じ操作をすると、周波数表示に戻ります。



「メモリ・チャンネルの初期設定値」

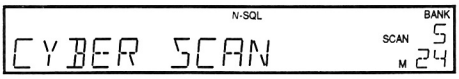
BANK	TEXT	MODE	周波数	BANK	TEXT	MODE	周波数
100	JG2AS	AUTO	40 kHz	106	JOLF	AUTO	1242 kHz
101	NHK 1	AUTO	594 kHz	107	JORF	AUTO	1422kHz
102	NHK 2	AUTO	693 kHz	108	1.9MHAM	AUTO	1.9075MHz
103	FEN	AUTO	810 kHz	109	BRODCAST	AUTO	2.300MHz
104	JOKR	AUTO	954 kHz	110	BRODCAST	AUTO	3.200MHz
105	JOQR	AUTO	1134 kHz	111	3.5MHAM	AUTO	3.550MHz

(以下略)（工場出荷時の書き込み内容は、都合により変更することがあります。）

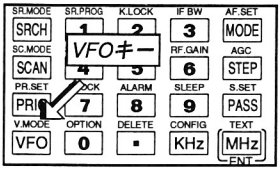
<サイバー・スキャン（CYBER SCAN®）について>

サイバー・スキャンは、スキャンをさらに高速に行うモードです。サイバー・スキャン状態のときには、周波数表示やテキストの表示を行いません。

1) ［FUNC］キーを押し、次に［TEXT］キーを約1秒間押します。
2) すると、右のように表示され、高速スキャンモードになります。



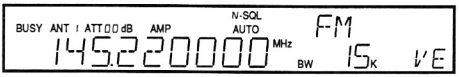
「VFOモードにふれてみましょう」



VFO（Variable Frequency Oscilater）モードとは、AR5000では「手動で周波数を変える機能」の意味で使っています。他の機種のマニュアル・モードに相当します。

VFOモードでは、周波数の入力や、各種の設定、登録などの操作を行うことができます。[VFO] キーを押すことにより、VFOモードになります。

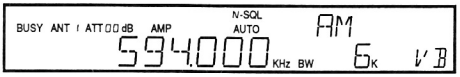
VFOモードには、VFO-Aから、VFO-Eまでの５つのバンクがあります。[VFO] キーを押すことで、表示が<VA>、<VB>、<VC>、<VD>、<VE>の順に切り替わります。



<周波数をマニュアルで入力する>

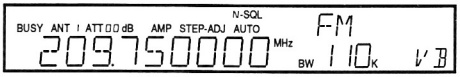
[例１] VFO-Bに594kHz（NHK東京第１ラジオ）を入力する

[VFO] キーを何回か押して、右端の表示が<VB>になるようにします。[5] [9] [4] [kHz] の順に入力します。信号を受信すれば、音声が聞こえてきます。



[例２] 209.75MHz（VHF-TV 10ch音声）を入力する

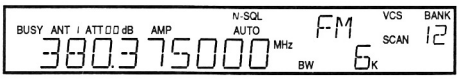
[２] [０] [９] [・] [７] [５] [MHz] の順に入力します。信号を受信すれば、音声が聞こえてきます。

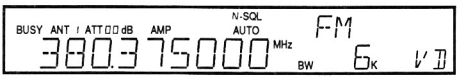


<VFOにサーチやスキャンの周波数を移す>

[サーチの周波数をVFOモードに移す]

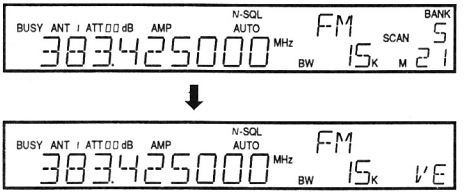
サーチの表示周波数をVFOモードに移すことができるのは、サーチが停止しているときです。このとき、[SRCH] または [ENT] キーを押すと、VFO-Dのチャンネルがサーチで受信していた周波数になります。検索中は、周波数をVFOモードに移すことはできません。





[スキャンの周波数をVFOモードに移す]

＜SCAN＞と表示され、＜BANK＞と＜チャンネル番号＞が表示されているとき、受信信号で停止中に［ENT］キーを押すと、VFO-Eのチャンネルがスキャンで受信していた周波数になります。



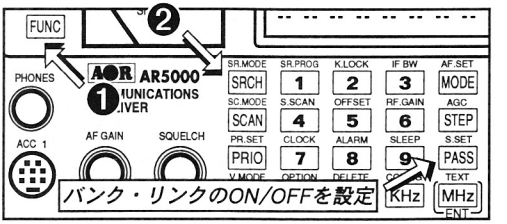
「バンク・リンク・グループの設定」

サーチしたり、スキャンしたりするバンクを複数選び、それらを次々に移りながら受信信号を捜すことができます。これをバンク・リンクといいます。バンク・リンクや、サーチ条件やスキャン条件などのデータを、使用目的別にグループとして10種類登録することができます。

＜連続サーチしたいバンクをリンクする＞

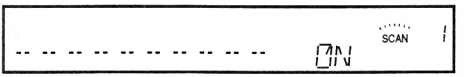
[例] バンク1、4、12をリンクして、サーチする場合

1）［FUNC］＋［SR.MODE］キーを押します。

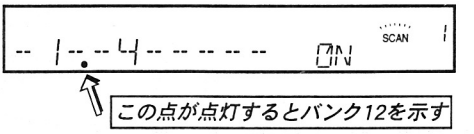


2）バンク・リンク・グループ番号を［サブ・ダイアル］で選びます。ここでは、グループ番号1を選びます。

3）バンク・リンクのON/OFFを［PASS］キーで設定します。［PASS］キーを押すごとにON/OFFが入れ替わります。

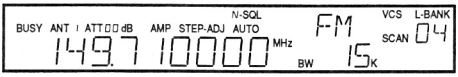


4）連続サーチ受信したいバンクを［数字］キーで設定します。ここでは、［1］、［4］、［・］［2］キーを押します。ここで十の位のバンクは［・］キーで設定します。画面上では、バンク12を設定すると、数字の2がくる位置の右下の小数点が点灯します。再度同じ［数字］キーを押すと、そのバンクの設定が解除されます。



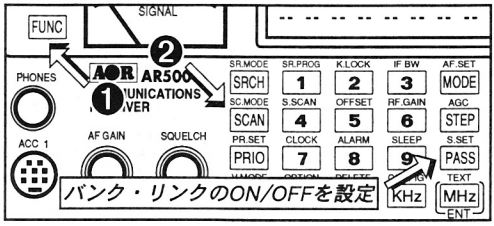
5）［ENT］キーを押します。サーチ条件は、さらに細かく設定できますが、ここでは初期設定のままにします。詳しくは、リファレンス・マニュアルを参照してください。

6）［SRCH］キーを押すと、バンク１、４、12を次々とサーチします。バンク12のサーチを終えると、最初のバンク１に戻り、これを繰り返します。



＜連続スキャンしたいバンクをリンクする＞

［例］バンク01、02、05をリンクして、スキャンする場合

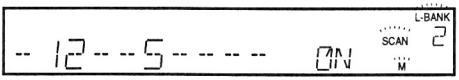


1）［FUNC］＋［SC.MODE］キーを押します。

2）バンク・リンク・グループ番号を［サブ・ダイアル］で選びます。ここでは、グループ番号２を選びます。

3）バンク・リンクのON/OFFを［PASS］キーで設定します。［PASS］キーを押すごとにON/OFFが入れかわります。

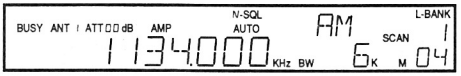
4）スキャン・バンク・リンクするバンクを［数字］キーで設定します。ここでは、［１］［２］［５］キーを押します。再度同じ［数字］キーを押すと、そのバンクの設定が解除されます。



5）［ENT］キーを押します。スキャン条件は、さらに細かく設定できますが、ここでは初期設定のままにします。詳しくは、リファレンス・マニュアルを参照してください。

6）バンク・リンクがONのとき、［SCAN］キーを２回押すと、バンク01、02、05を次々とスキャンします。バンク05のスキャンを終えると、最初のバンク01に戻り、これを繰り返します。

◎この設定のとき、バンク01、02、05以外のバンクを選んだ場合は、そのバンクだけをスキャンします。

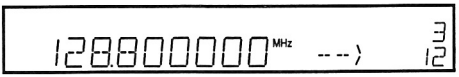


「メモリ・チャンネルの書き込みをしましょう」

1つのメモリ・チャンネルには、1つの周波数をメモリできます。本機には、1バンクあたり100のメモリ・チャンネルが用意されており、10バンクで合計1,000個のメモリ・チャンネルがあります。

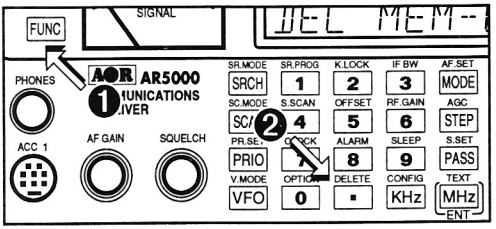
[例1] VFOモードで受信した、128.8MHz（羽田ATIS）をバンク3の12チャンネルにメモリする場合

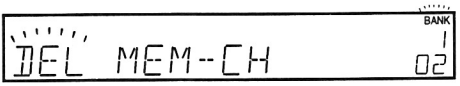
1) [VFO] キーを押し、VFOモードにします。
2) 周波数を [数字] キーで入力します。ここでは、[1] [2] [8] [・] [8] [MHz] キーを順に押し、[ENT] キーを押して、周波数を確定します。
3) さらに [ENT] キーを約1秒間押します。空きメモリ・チャンネルがあれば自動的に探し出し、そのチャンネル番号を表示します。
4) ここでは、[3] [1] [2] キーを順に押し、バンク3の12チャンネルにメモリします。
5) [ENT] キーを押し、確定します。



[例2] バンク1の02チャンネルを消去する場合

1) [SCAN] キーを押し、チャンネル呼び出しモードにします。
2) [1] [0] [2] キーを順に押し、バンク1の02チャンネルを呼び出します。
3) [FUNC] + [DELETE] キーを押します。
4) バンク1の02チャンネルを画面で確認したあと、[ENT] キーを押すとメモリが消去されます。





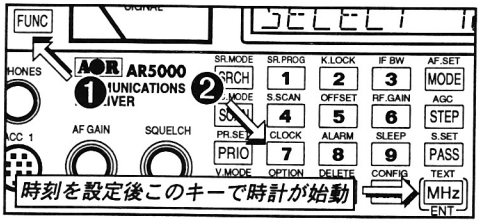
「操作環境を設定しましょう」

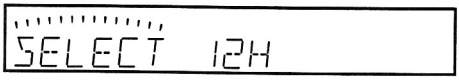
＜時刻のセットをする＞

1）［FUNC］＋［CLOCK］キーを約１秒間押します。

2）［サブ・ダイアル］で「12時間」表示か「24時間」表示かを選びます。［UP］キーを押します。

3）時刻を［メイン・ダイアル］と［サブ・ダイアル］で合わせます。［メイン・ダイアル］を回すと「時」が［サブ・ダイアル］を回すと「分」が設定できます。時刻が０秒のときに、［ENT］キーを押すと、時計が動き始めます。

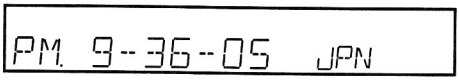




＜時計表示をする＞

1）［FUNC］＋［CLOCK］キーを押すと、時間表示になります。

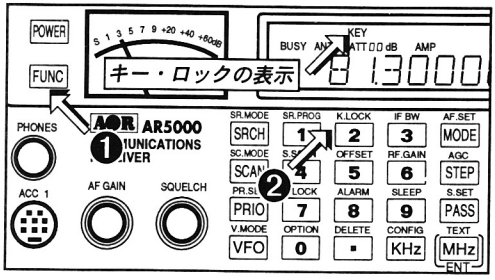
2）さらに［FUNC］＋［CLOCK］キーを２回続けて押すと、もとの周波数表示などに戻ります。



＜キー・ロック機能を設定する＞

キー・ロックをすると、キーを押したり、ダイアルを回しても、各操作が無効になります。キー・ロックをかけるには、［FUNC］＋［K.LOCK］キーを押します。画面に＜KEY＞と表示されます。

再度、［FUNC］＋［K.LOCK］キーを押すと、解除されます。



<ランプやビープ音などの設定をする>

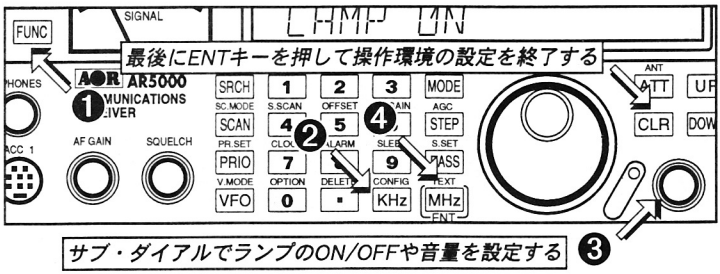
1) [FUNC] + [CONFIG] キーを押します。まず、ランプ（照明）のON/OFFを［サブ・ダイアル］で設定します。[UP] キーを押します。

LAMP ON

2) 次に、キータッチ音（ビープ音）や操作エラー音などの音量を設定します。音量は、0～255の範囲で［サブ・ダイアル］を回すことで設定します。はじめは、20くらいが適当です。0にすると音がでません。

BEEP 20

3) [ENT] キーを押して、設定を終了します。



この他にも、各種の操作環境を設定できますが、詳しくはリファレンス・マニュアルを参照してください。

❖

株式会社 **エーオーアール**
〒111 東京都台東区三筋 2-6-4
Tel. 03-3865-1681
Fax. 03-3862-9927

© AOR, LTD. 1996

9601